

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

- (1)実施日 令和6年4月18日(木)
※児童・生徒質問紙調査は、文部科学省の定める日に各校においてオンライン実施
- (2)実施校 市内小学校 22校の6年生：1,075人
中学校 9校の3年生：963人
- (3)実施科目 小学校：国語、算数、児童質問紙
中学校：国語、数学、生徒質問紙

2 調査結果の公表

本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子供たちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子供たちが身に付けるべき学力の一部を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

3 調査結果の概要

小学校では、全国との比較では、各教科ともに平均正答率を下回りました。県との比較では算数はやや上回りましたが、国語は下回りました。

中学校では、各教科ともに、平均正答率について全国との比較では3ポイント以上、県との比較では2ポイント以上上回りました。

今後は、詳細な分析を行い掛川市全体の成果と課題について明らかにし、家庭向けリーフレットを公表したり、さらなる授業改善に努めたりする予定です。

4 市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】

小学校	国語	算数
掛川市	66.5%	61.7%
静岡県	67.2%	61.6%
全国	67.7%	63.4%
中学校	国語	数学
掛川市	61.7%	57.3%
静岡県	59.0%	55.3%
全国	58.1%	52.5%

【全国・県の平均正答率を100とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語	算数
静岡県比較指標値	99	100
全国比較指標値	98	97
中学校	国語	数学
静岡県比較指標値	105	104
全国比較指標値	106	109

5 全国と比較して正答率の高かった主な内容（○）と低かった主な内容（▲） ※全国比

(1) 小学校国語

- 学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。
- オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。
- ▲オンラインで交流する場面に【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する。
- ▲【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す。(なげる)
- ▲【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。

(2) 小学校算数

- 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。
- 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。
- 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く。
- ▲作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ。
- ▲円の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。
- ▲家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。

(3) 中学校国語

- 話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。
- 本文中に示されている二つの役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する。
- 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。
- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
- ▲話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。
- ▲本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。

(4) 中学校数学

- 正三角形の各頂点に○を、各辺ののに□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。
- 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ。
- 結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く。
- 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくる時、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ
- ▲等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く。
- ▲18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。

6 掛川の子供たちの特長（主なものを抜粋）

※ 4～5段階のうち、「当てはまる」「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合

項目	小学校			中学校		
	掛川市	全国	比較	掛川市	全国	比較
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている	51.7%	48.8%	2.9 p ↑	52.2%	44.2%	8.0 p ↑
人が困っているときは、進んで助けている	46.9%	46.0%	0.9 p ↑	46.4%	38.3%	8.1 p ↑
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	34.5%	30.2%	4.3 p ↑	32.0%	28.7%	3.3 p ↑
学校に行くのは楽しい	47.8%	47.2%	0.6 p ↑	48.9%	43.5%	5.4 p ↑
友達関係に満足している	67.6%	62.4%	5.2 p ↑	56.2%	55.0%	1.2 p ↑
（前の学年までの学習の中で）PC・タブレットなどのICT機器を活用し、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	58.5%	58.4%	0.1 p ↑	76.0%	62.8%	13.2 p ↑
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしながら、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	48.2%	47.8%	0.4 p ↑	54.5%	46.1%	8.4 p ↑
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	47.4%	47.3%	0.1 p ↑	64.0%	49.8%	14.2 p ↑

7 今年度中学校3年生の指標値の推移

令和3年度 小学6年の結果

令和6年度 中学3年の結果

	国語	算数	➡		国語	数学
静岡県	99	101		静岡県	105	104
全国	99	100		全国	106	109

○国語、数学ともに、全国・県と同等以上の学力を着実に身に付けています。

8 正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

<小学校・中学校共通項目>

- ・毎日同じ時刻に起きて、寝ている。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- ・国語の勉強は大切だと思う。
- ・国語の授業内容がよくわかる。
- ・算数・数学の勉強が好き。
- ・算数・数学の勉強は大切だと思う。
- ・算数・数学の授業内容がよくわかる。
- ・算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。
- ・算数・数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。

○これらの項目に肯定的に答えた子どもたちが、国語や算数・数学すべての平均正答率が高い傾向にありました。

9 調査結果から

○児童生徒による1人1台端末の授業での活用が進み、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善が進められている。

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した」と答える児童生徒の割合は、全国より10ポイント以上高く、中学3年生では90%を超えました。また、ICT機器について「分からないことがあった時にすぐ調べることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」など効果的に活用できると肯定的に回答した割合も全国を上回っています。併せて、国語や算数・数学の学習の大切さや社会に出た時に役立つことを感じている児童生徒も多いです。

児童生徒による1人1台端末の授業での活用が進み、学習の個性化と共に指導の個別化が図られ、児童生徒が協働する中で各教科の学ぶ意味や生活とのつながりを捉えられるようにするなど、主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進めている成果が表れてきていることが伺えます。

○温かな人間関係のもと、児童生徒が主役となって「市民総ぐるみ」で教育活動が進められている。

「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答える児童生徒の割合が全国よりも高く、温かな人間関係のもと、充実した学校生活が送られていることが表れています。

また、「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合も高く、肯定的な子供観のもと、「他律」から「自律」をキーワードに、制服、校則改革や各種行事の検討など、児童生徒が主役となって活動してきた成果が表れていると考えられます。

この基盤には、掛川ならではの『お茶の間宣言』や『中学校区学園化構想』に基づく家庭、地域、学校が連携した『市民総ぐるみの人づくり』があります。これは、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の割合が中学校においても全国を上回って高く維持され、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがどれくらいありますか」との問いに、「よくある」「ときどきある」と答える児童生徒が、共に合わせて90%を超える高い割合を示していることから伺えます。